

令和7年度第1回幕別町部活動地域移行検討委員会 開催結果

1 開催日時

令和8年2月19日（木）19時00分から20時10分まで

2 開催場所

札内コミュニティプラザ 会議室2

3 出席者

【委員】

七田委員、小田委員（リモート参加）、稗田委員、高道委員、小松委員、坂口委員、
沖田委員、西山委員（全8名） ※欠席2名：久保委員、加藤委員

【教育委員会】

笹原教育長、石田教育部長、谷口生涯学習課長、甲谷学校教育係長、
吉田社会体育係長、喜多学校教育推進員、古市主査、尾崎

4 議題

(1) 地域移行に関する情報提供（資料に基づき説明）

【質疑・意見】 ○：委員、●：教育委員会

- 令和7年12月に改めて提示されたガイドラインに目を通したが、今までの内容とあまり変わっていないのではと感じた。
- 指導者だけではなく、地域移行に対して実際に動いていく人材を確保して進めていくしかない。
- 国が、「地域移行」から「地域展開」と取組の名称を変更しているのを見るに、更なる改革を推進しているのを感じる。今後、地域移行を進めていく懸念点として挙げられるのは、移動面の支援や、学校を部活動の拠点とするか否かも重要であると考えられる。
- 本校中学校の部活動加入率は約6割である。仮に新1年生70名として、8つの部活動に分散して入部すると、1部活動の新入部員は約5名となり、偏りが出れば、新入部員がいない部活動も出てしまうのが現状である。部員数減少により、今後他校と合同チームを組む等の場合もある。地域での部活動のあり方について考えていかなければならないと感じる。
- 移行とは受け皿探しではなく、部活動地域移行の本質は何かを見極め、子ども達の活動のために環境を整備していくことが重要である。そのために行政、学校及び地域が団結しなければならない。
- 少年団は部活動よりも、地域の人たちで取り組んでいると感じている。部活動では学校に依存している部分を少しずつ地域の人たちに展開していく必要がある。また、部活動は学校でやるものと地域は思っているため、地域の意識を変えていくべきだと感じており、啓蒙の仕方や働き方を考えていくべきではないか。

(2) 今後の進め方

【質疑・意見】○：委員、●：教育委員会

- 資料を見たが漠然としており、本当に進められるのか不安である。最低でも毎月進捗を確認して進めていかないといけないのでは。
- 地域でできることは、少しずつ入って進めるべきである。移行に関する懸念点を一つずつ解決していくことが重要である。
- 中学校に進学する子を持つ親は、今後部活動がどうなるかを気にしている。部活動地域移行に関しての状況が地域に浸透していないため、まずは地域に伝えるところから取り組むべきである。
- 令和13年度までに学校部活動の地域展開を目指すとガイドラインに記載されているが、それより前に取り組むべきである。また、移行していく問題点として、活動場所を学校から完全に切り離してしまうと、移動面等から親は不安になると考える。
- 実際に動いていかないと何も始まらない。まずは行政が方針を示し、発信していくべきだと考える。まずは動いて、その中で見つかった問題点を解決していく方向性が良いのではと感じる。
- 期間が長くなればなるほど、それに伴って部活動を取り巻く状況も変化していくため、早めに動いていくべきである。
- 地域展開が進められる種目があるかどうかを、まずは生徒のニーズ把握と学校部活動担当者との協議を進めていく。また、地域展開を行っていくうえで、検討フロー図に挙げた項目を1つ1つ解決・整理して進めていきたい。